

行政視察報告書



令和5年10月23日・24日

| | | | |
|-------|---------|------|------|
| 西脇市議会 | にしわき青嵐会 | 高瀬 洋 | 村岡栄紀 |
| | | 岸本年裕 | 藤原秀樹 |
| | 会派以外 | 藤原桂造 | 杉本佳隆 |

1 視察実施日及び視察先

- (1) 令和5年10月23日（月）
鳥取県八頭郡智頭町
- (2) 令和5年10月24日（火）
岡山県勝田郡奈義町

2 視察事項

- (1) 智頭町
 - ・日本1／0村おこし運動
 - ・智頭町百人委員会
 - ・おせっかい奨学生
 - ・移住定住
 - ・疎開保険
 - ・石谷家
- (2) 奈義町
 - ・子育て応援宣言の背景や結果
 - ・子育て支援施策の内容



3 参加者

| | | |
|---------|------|------|
| にしわき青嵐会 | 高瀬 洋 | 村岡栄紀 |
| | 岸本年裕 | 藤原秀樹 |
| 会派以外 | 藤原桂造 | 杉本佳隆 |

所感 高瀬 洋

智頭町の視察で一番興味を持ったのは、百人委員会だ。この活動は平成20年から開始され、10周年記念誌が発行されている。その冒頭の言葉で、この活動の内容を良く理解できるので紹介する。「智頭町の自立度を高めて、活力ある地域づくりを進めていくためには、町政～住民の皆さんの声を反映していくことが必要であることから、平成20年「智頭町百人委員会」が設置されました。百人委員会は住民が身近で関心の高い課題を話し合い、これを解決するための政策を行政に提案していく組織であり、智頭町ならではの住民自治の実践を目指します。」



百人委員会 10周年記念誌 QR コード

百人委員会には、商工・観光部会、生活環境部会、農業・林業部会等7つの部会があり、住民の希望でメンバーが決まる。活動テーマは、毎年、部会で決めて活動を行うが、成果が期待でき、まちづくりにもつながる活動については、町の事業へ移行する。

この活動は、西脇市の議会と語ろう会から政策に生かす活動と違い、自主的なボトムアップ型の町民の活動や提案が町政に反映されるため、町の事業とする段階で、既にある程度の実績と町民との合意があるといった点で優れていると考える。

翌日に視察した奈義町は、人口約 5,700人、面積約70km²の自治体である。ここには、自衛隊の日本原駐屯地があり、その面積は行政区の約2割を占める。町内を移動していて感じたのは、図書館等の公共施設が立派で道路なども広く気持ち良かったことだ。

また、人口の内、約400人は自衛隊関係となっている。令和元年の合計特殊出生率2.95という数字は、こういった好条件がプラスに作用している面もあると思われるが、子育て中の母親等を対象とした「しごとコンビニ事業」、ちょっとした子どもの預かりや子育て相談に応じてくれる「なぎチャイルドホーム」、「保育料が国基準の約半額」、

「小中学校の給食費の半額町負担」、「高校生への就学支援、年240,000円」等々がある。西脇市とは違い財政的に恵まれている面はあるが、子育て世代への支援メニューとしては学ぶことが多くあった。



広い道路に面した奈義町現代美術館

所感 村岡 栄紀

【鳥取県智頭町】

鳥取県智頭町の人口は 6,291人（高齢化率44.8%）であり、2040年には 3,870人と、約4割の減少が予測されており、智頭町は、それを何とか 5,000人までに減少を食い止めることを目標にされています。

視察を通じて「日本1/0村おこし運動」「百人委員会」「おせっかい奨学生」「移住定住」「疎開保険」「森林セラピー」など様々な取組の説明を受けましたが、私が最も素晴らしいと感じたのは、安全・安心で魅力的な子育て環境をつくるために、平成21年からスタートされた「智頭町 森のようちえん まるたんぼう」であり、町も全面的に活動をバックアップされています。

93%が森林という智頭町で、9か所あるフィールドを日替わりで遊びながら、3～5歳の子どもたちが毎日森に通っています。森の中では子どもたちが主人公で、木登りをしたり川遊びをしたり自然をたっぷりと体験しながら、雨の日も雪の日も、1年を通して時に厳しい環境である森に通うことで、たくましい体としなやかな心を育むことが狙いです。

ひと昔前には当たり前だった「子どもたちが自分たちで行きたい場所に行けて、やりたいことがとことんできる」北欧発祥の「森のようちえん」を立ち上げることで、「都会にはない、ここでしかできない子育て」の形を示すことで、子育て世代の家族に移住してもらいたい、そんな思いでスタートされています。

そして、今では多くの子育て世帯が移住され、「まるたんぼう」だけでは受け入れられなくなり、2園目となる「空のしたひろば すぎぼっくり」が、そして、卒園した子どもたちがそのたくましく自由な学びをそのまま続けられる学校として「新田サドベリースクール」（先生・授業・カリキュラム・評価がない学校として知られています。）が開園するという充実ぶりです。

今回の視察を本市に置き換えるならば、人材等の課題は当然ありますが、学校の統廃合を発想の転換で、人口減少に立ち向かうチャンスと捉え、潜在能力を秘めた廃校予定の双葉小学校を「森のようちえん」の活動拠点として活用し、山村ならではの環境を十分に活用しながら、ここでしかできない子育ての場を創造することができれば、移住者も含めて、満足して子育てをする家族が増えていくのではないかと考えます。

【岡山県奈義町】

岡山県奈義町の人口は 5,751人であり、独自の子化対策を打ち出し、2005年時点で「1.41」だった出生率を「2.95」（2019年）に引き上げた「奇跡のまち」として知られています。

なぜ、全国の中でも奈義町なのか、視察に行くまでは漠然としていましたが、私なりの結論としては、面積 69.52km²（東西約 9 km／南北10km）の中心部から半径 2 kmに人口の 8 割が定住するコンパクトシティを形成されたことが、最大の成功要因であると考えます。

車を走らせると、半径 2 km内は道路や建物のインフラがきちんと整備されており、街並みが周りの自然とうまく調和していてとても美しく、初めて見る景色でしたが、思わず…「こんな街に暮らしたい」と思わせる魅力がありました。

そして、半径 2 km外は、本当に何も無い、どこまでいっても何も無い、コンビニもお店も何も無い、見渡すところ山ばかりといった、これぞまさに山奥といった、市街地とのコントラストの大きさに驚きを隠せませんでした。

8割の人が半径 2 kmの美しい街並みに暮らし、人もお金もそこに集中する超高効率なコンパクトシティの形成により、下記の 5 つの安心が生まれています。

- ① 「住むところがあって安心（若者住宅、定住促進住宅、安価な分譲地など）」
- ② 「働くことができ安心（工業団地や起業支援、しごとコンビニ、シェアオフィスなど）」
- ③ 「子育ての負担が軽くなって安心（出生から大学卒業まで切れ目のない経済的支援）」
- ④ 「子育ての悩みや喜びが共有できて安心（チャイルドホームが核となり多様な地域の人に関わる仕組み）」
- ⑤ 「町のみんなが子育てを応援してくれて安心（一時預り、自主保育、登下校の見守り、学校支援ボランティアなど）」

これらはすべて、しっかりとしたコンパクトシティが形成されたからこそ、実現できた施策や成果であり、本市も人口減少対策の切り札として、立地適正化計画によるコンパクトシティを目指していますが、まだまだ「多極分散」の要素が強く、奈義町のような徹底的な「多極集中」により、戦略的に賢く縮んでいくことが、今後の発展の鍵になることを認識させられた、有意義な視察でした。

所感 岸本 年裕

この度、鳥取県智頭町と岡山県奈義町に現地視察に行きました。智頭町は、人口 6,291人、高齢化率44.8%、面積 224.7km²、地区数 6 地区、集落数88集落の自治体です。

智頭町では、「一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ」をテーマに村おこし運動をされていました。

1997年に集落を支援するために「日本 1 / 0（ゼロ分のイチ）村おこし運動」をスタートされ地域に眠っている資源を掘り起こし、磨くことで地域の「宝」や

「誇り」を作り出し自分たちの町は自分たちで守るという意識づくりを町全体で行われています。0から1（ゼロ分のイチ）つまり無から有への第一歩こそ村おこしの精神と感じました。もう一度自分たちも西脇市の良いところを0から1歩探して行きたいと思います。

二日目は、岡山県奈義町に視察に行きました。奈義町は、人口 5,751人、世帯数 2,533世帯の自治体です。この町は少子化対策の一貫として、若者向けに賃貸住宅の建設に取り組み、月額5万円代の格安な賃貸の設定で若者世帯の町外への転出を防ぎ人口維持に努められているのが印象的に感じました。

奈義町の出生率では、平成17年に1.41だったのがわずかに9年後の平成26年には2.95と約2倍になり、令和3年では2.68、その後も下がってはいますが依然2.40前後を維持しています。その要因は数多くの子育て支援施策にあり、その中でも通学する高校生への通学費の補助や高校生までの医療費の全額負担、高額の不妊治療費の助成や第5子以降の40万円の出産祝い金など、手厚い子育て支援施策の実施により出生率が多く維持できているのではないかと思います。少子高齢化が加速する奈義町が人口維持のため町長、行政が一体となって対策に取り組んだ結果だと思われます。

所感 藤原 秀樹

10月23日月曜日 鳥取県智頭町「日本1／0村おこし運動」

10月24日火曜日 岡山県奈義町「少子化対策～町全体での子育て～」

智頭町を視察し、0から1を、無から有の第一歩を運動の柱に、自分たちの村は自分たちで守る、を理念に、やる気のあるところからやっていく、住民が主役のまちづくりがされていました。そのまちづくりの拠点として廃校になった小学校跡を利用して企画運営された、テナント(木に関する企業)・宿泊兼温浴施設・森林セラピー・キクラゲ栽培など今後の西脇市の参考になりました。

百人委員会は、まちづくりに小中学校や高校や大学なども参加しており、多くの世代が関わる仕組みがあり、世代交代と組織の変化をしながら進んでいるところが良いと思いました。

移住定住では、R4年 163世帯(371人)で家賃補助や小中給食費無料や高校の通学補助などの助成を行い、鳥取市などのベッドタウン化を目指しているのかなと思いました。

奈義町を視察し、少子化対策は安価な住む場所の提供と多くの子育て学習支援金、しごとコンビニ事業のような子育てしながら就労できる仕組みやチャイルド

ホームなどの気軽に預けられる一時保育など多くの子育て支援がされており、高い合計特殊出生率があるのだなと思いました。中心地から半径約2kmに人口の80%が住んでおり街並みも良く、津山市まで30分という立地条件でベッドタウン機能をしているとも思いました。

定住促進のためには、産み育てる環境、住む環境、魅力ある教育、働く環境に対策が必要。

これには多くの財源が必要だと思いました。奈義町は陸上自衛隊日本原駐屯地（400人）や実弾演習場を受け入れ、過疎債なども利用し確保されていると思います。どうやって財源を確保し、どこに重点をおいて使うかが重要だと思います。

今回の視察で聴いた事見た事学んだ事を参考に今後の活動に生かしていきます。

所感 藤原 桂造

【鳥取県智頭町】

智頭町は、地形的には川が流れる低い位置に平行して集落が立地しており、想像していたより幹線道路の上り下りは穏やかでした。そして、山間部における想像をはるかに超える日本有数の杉の高木の群生が圧巻でした。

智頭町の取組で最も印象に残ったのが、本市に例えると地域自治協議会に該当する「日本1/0村おこし運動」です。「自分たちの村は自分たちで守る」をモットーに、地区ごとに集落それぞれの強みを生かした独自の取組や活動をされており、これは、小さな村おこしが、やがて大きなまちづくりになることを前提に、どんな小さなことでも、最初の一步を踏み出すことがいかに大切であるかということ学びました。

そして何より町のシンボルとしての石谷家（山師・林業として栄えた旧家屋）の存在です。平日にも関わらず幾人かの来客があり、観光誘客に効果的だと個人的には感じました。わが西脇市も日本のへそ（センターオブジャパン）を象徴する、観光案内をも兼ねた建築物が不可欠であると強く思いました。

【岡山県奈義町】

奈義町では、子育て支援が非常に手厚く充実しています。特に印象に残ったのが「なぎチャイルドホーム」です。“少子化対策は子育て世代だけの問題でない。だからこそ、課題を住民と一緒に考える”“少子化対策は最大の高齢者福祉”ということのスローガンに、そこには地域のお年寄りが、時間の合間を縫ってお手伝いに来られるなどの取組があり、地域ぐるみで安心して子育てできる環境が、この町に移住して出産しようという気にさせるのではないのでしょうか。（一人当たりの出生率2.95）

所感 杉本 佳隆

10月23日（月）鳥取県智頭町

智頭町の様々な事業の中から『村おこし運動』に注目しました。各集落において特産品の開発、行事等の活動は、本市では自治協議会に当たると思いますが、本市においても特産品の開発や地域コミュニティが行われています。難しいと思いますが、町内会単位でも特産品などの開発ができれば、地域がもっと元気になるのではないかと思います。

また、『疎開保険』についても注目しました。本市において災害等で被災された方々の一時的な宿泊先として空き家を受け入れる。空き家を利用することはとても良いアイデアだと思いました。しかしながら、空き家をすぐにでも住めるように住宅整備をしておかなければなりません。一時的な避難用住宅ではなく、できれば定住移住していただくことを推奨し『西脇市は災害が少ない街』としてPRし、リフォーム予算を捻出する事、会員登録者の募集など、検討する余地があると思われませんが、検討するべきと考えます。

10月24日（火）岡山県奈義町

奈義町の魅力は、人口減少対策として子育て世代への移住に力を注いでいる事です。

少子化対策は最大の高齢者福祉との位置付け、そのためには企業誘致、住宅整備、経済支援、子育て施設建設を進め、予算確保については、陸上自衛隊の日本原駐屯地や演習場があり、一般会計予算に含まれていないようですが、国からの道路整備や箱物等の建設があれば財政が豊かなのかも知れません。

本市においても人口減少の進行を止める、または鈍化に努めることが重要であります。10年後、20年後の未来のために、何を行うのかが大きな課題であります。

まずは、幼児から高齢者までの住民コミュニティを取り、住み良い街づくりを考える時間が必要だと思います。